

日本損害鑑定協会

会長 太田 英俊



謹んで新年のお慶びを申し上げます。昨年(令和7年)は遅くまで酷暑が

続きましたが、例年に比べ大型台風(台風26号)の被害が少なかつた一方で、全国各地で集中豪雨や、暴風、落雷、降雹等の被害が発生した他、12月8日の深夜には青森県で震度6強を観測する地震も発生し、皆さま相変わらずお忙しい毎日をお過ごしのこと

と思います。被災された皆さま方には、心よりの見舞い申し上げます。また、早くからインフルエンザの流行が拡大している上、その他の感染症も蔓延しているようです。感染防止対策と健康管理には十分にご留意いただきたいと思いま

す。当会で実施している各種研修への参加者は年々増加し、昨年の11月29日に開催した第11回損害鑑定フォーラムはこれまで

で最大の参加者、視聴者となり、協会内外からの関心が一層高まっています。ご参加、ご視聴、ご支援いただきた皆さまに、改めて

に引き継ぐべく、50周年史を作成いたしました。これらの取り組みを通じて、当会と会員所属の鑑定人は、諸先輩の何を引き継ぎ、何を

今年(令和8年)は午年です。馬は、力強さやスピードを表現し、変化を恐れず新しい挑戦へ踏み出すのに良い

所存でございます。損害鑑定人の技量や品質の向上、知識の増強は、常に実践していただくことが求められます。当会は継続的な専門教育体系の

また、今年(令和8年)6月に理事、監事の改選を控えており、新任の理事、監事が任命されることが想定されますが、新任理事、監事の新しい力が、新たな損害鑑定業界の半世紀を創造していくことに貢献いただけるものと信じてまいります。

健全かつ先進的な損害鑑定業界に

す。当会で実施している各種研修への参加者は年々増加し、昨年の11月29日に開催した第11回損害鑑定フォーラムはこれまで

て厚く御礼申し上げます。当協会は昨年10月に設立50周年を迎えるに当たり、損害鑑定業界の発展と当会のあゆみを次世代

生み出していかを考えると、当会が、今後も多くの方々から信頼され、期待に応え、支持されるべく活動して行かねばならないと、改めて

い年であると言われております。当会(設立50年)を迎え、今年(令和8年)は正に次の半世紀に向かって挑戦し、踏み出していく一年とすべく、努力してまい

充実と発展を目指し、独自の損害鑑定人向けのCPD制度の研究、準備を進めており、早期に皆さまへご紹介できるようにして行きたいと考えております。

その他、刻々と変化する損害調査を先取りするような研修内容の充実や、損害鑑定フォーラムの開催、超巨大地震を想定した態勢整備等々、当

このからも健全かつ先進的な損害鑑定業界を作るよう一層の努力を重ねてまいりますので、皆さま方におかれましては、引き続き変わらぬご支援、ご協力をいただきますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

(見出しは編集部)